

清流

題字：芳野 充

令和7年3月30日

第99号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

自分のために笑顔でいよう

おそらくほとんどの人が、不愛想な顔や不機嫌な顔であいさつされるよりも、やさしい笑顔であいさつされるほうが気持ちがいいし安心する、と感じるのではないのでしょうか。わたしもその一人です。

笑顔は仏教のなかでも「和顔施」といって、お金を払わずとも笑顔を相手に向けること立派なお布施になる、といわれますし、かのマザー・テレサも「平和は微笑からはじまる」と笑顔の大切さを言葉に残しています。わたしもこの笑顔の大切さを実感しているため朝、顔を洗う際にはカガミの前で笑顔をつくる練習をしています。それは、相手のためにと考えていたからです。

この考えもまちがいでないと思いますが、ある人の言葉を知ってから、人のために笑顔をおけるといっても、自分のために笑顔でいよう、と思うようになりました。

その方は、「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞に度々選考される、株式会社日本レジャーの近藤会長です。かんたんに紹介します。一九九四年に債務超過・倒産寸前におちいり、主力銀行からも見放された子会社の日本レジャーに、親会社の命をうけ就任したのが近藤氏です。“人を大切にしながら利益を上げる”経営改革をすすめ、就任初年度から黒字化、以来二十五年連続黒字、十二年以上離職者はほぼゼロという、わたしの手本とする会社です。この近藤会長が「幸運に恵まれるための条件」として次の五つを紹介していました。

- 一、常に笑顔で周りに対応する
- 二、常に周りに感謝する
- 三、常に仕事を通じて成長することを心がける
- 四、利他の気持ちで周りの人のためにも働く
- 五、いいことも悪いことも身の回りで起こることは必然であり、自分が招いていると自覚する

この一番目をみたとき「笑顔は結果として自分にかえってくる」と腹落ちした感覚を味わいました。それまで“人のために笑顔でいなければ”という強迫観念にも近い考えであいさつを行っていたような気がしました。

仏教の教えも、マザー・テレサや近藤会長の言葉もよくよく解くと、笑顔でいることで自分の心が明るく軽やかになり、接した人にも自然と安心や心地よさをわたせる。それはめぐりめぐって自分に幸運をもたらすということ。つまり、物事をいかに自分事としてとらえて動くのか、ということではないでしょうか。イヤなことがあっても笑顔でいられる心の状態を意識的に自分でつくるのが、幸運に恵まれるカギにちがいません。

加来

